

宇野木 洋 教授 経歴・著作・研究業績

学歴・職歴・その他

【生年月日】

- ・1954年6月26日（東京）生

【学位】

- ・文学修士（東京都立大学 1980年3月）
- ・博士（言語文化学）（大阪外国語大学 2007年3月）

【所属学会など（主要役職）】

- ・日本中国学会（1980年10月入会）
- ・日本現代中国学会（1980年10月入会／理事＝2002年10月～現在に到る／常任理事・学会誌『現代中国』編集委員長＝2016年10月～2018年10月／学会誌『現代中国』副編集委員長＝2018年10月～現在に到る）
- ・中国社会文化学会（1993年4月入会）
- ・世界文学会（1980年4月入会）
- ・中国文芸研究会（1980年4月入会／編集委員・事務局員＝1985年4月～現在に到る／事務局長＝1996年4月～2001年3月、2004年4月～2005年3月）

【学歴（高校卒業以降）】

- ・1973年3月 私立桐朋高等学校卒業
- ・1973年4月 東京都立大学人文学部入学
- ・1978年3月 同中国文学科卒業
- ・1978年4月 東京都立大学大学院人文科学研究科中国文学専攻修士課程入学
- ・1980年3月 同修了
- ・1980年4月 東京都立大学大学院人文科学研究科中国文学専攻博士課程入学
- ・1984年3月 同修了

【職歴】

- ・1984年4月 立命館大学法学部助教授
- ・1992年4月 同教授
- ・2010年4月 立命館大学文学部教授（所属学部移籍）
- ・2012年3月 同文学部現代東アジア言語・文化専攻教授（所属専攻新設）
- ・2020年3月 同定年退職
- ・2020年4月 立命館大学名誉教授／同文学部特別任用教授

【非常勤講師出講歴】

- ・東海大学（中国語）＝1983年4月～1984年3月
- ・京都府立大学（中国文学講読）＝1985年4月～1987年3月
- ・関西大学（中国語）＝1988年9月～1989年3月
- ・同志社大学（中国語）＝1989年4月～1991年3月
- ・愛媛大学（中国近代文学特殊講義／集中）＝2001年8月
- ・茨城大学（中国現代文学特殊講義／集中）＝2003年1月
- ・奈良女子大学（言語文化情報論講読＝中国現代文学講読）＝2005年4月～2006年3月
- ・奈良女子大学（中国文化表現論特論＝（院）中国現代文学演習）＝2008年4月～9月
- ・奈良女子大学（中国文学特殊研究＝（院）中国現代文学演習）＝2009年10月～2010年3月

【長期国外研究歴】

- ・中国（天津）・南開大学中文系＝1987年9月～1988年3月（交換研究員）
- ・中国（天津）・南開大学中文系＝1993年9月～1994年3月（訪問学者）
- ・中国（北京）・清華大学中文系＝2001年9月～2002年3月（訪問学者）
- ・中国（北京）・清華大学中文系＝2008年10月～2009年4月（高級訪問学者）

【主要学内役職（立命館大学教職員組合・立命館生活協同組合・〔財団法人〕大学コンソーシアム京都など、大学関連役職を含む）】

- ・立命館大学法学部学生主事＝1991年4月～1992年3月
- ・立命館大学外国語教育センター設置準備委員会副委員長＝1992年4月～9月
- ・立命館大学外国語教育センター副所長＝1992年10月～1993年9月／1994年4月～12月
- ・立命館大学教職員組合書記長（立命館教職員組合連合書記長兼任）＝1994年12月～1995年12月
- ・立命館大学言語教育・研究センター副所長＝1996年4月～1998年3月
- ・立命館大学国際平和ミュージアム企画局長＝1998年4月～1999年3月
- ・立命館大学学生部副部長＝1999年4月～2001年3月
- ・立命館大学法学部副学部長＝2003年4月～2004年3月
- ・〔財団法人〕大学コンソーシアム京都・学生交流事業部長＝2004年4月～2005年3月
- ・立命館大学教学部副部長＝2005年4月～2008年3月
- ・立命館孔子学院副院長＝2005年10月～2007年3月／2011年4月～2013年3月／2015年4月～2016年3月
- ・立命館大学言語教育センター長＝2010年4月～2012年3月
- ・立命館大学文学部副学部長＝2012年4月～2014年3月
- ・立命館大学教職員組合執行委員長（立命館教職員組合連合執行委員長兼任）＝2015年1月～2016年1月
- ・立命館孔子学院院長＝2016年4月～現在に到る
- ・立命館生活協同組合理事長＝2016年5月～2019年5月

【社会活動など】

・日本中国友好協会京都府連合会会長・同協会全国理事 = 2008年7月～現在に到る

著作目録 (2019年12月末現在)

【単著】

1. 『克服・拮抗・模索——文革後中国の文学理論領域』世界思想社 2006年3月

【共編著】

1. 『中国近現代文学研究ガイド』(中国文芸研究会編)中国文芸研究会 1985年12月
2. 『図説・中国20世紀文学』(中国文芸研究会編)白帝社 1995年3月
3. 『国際化時代の外国語の学び方』(立命館大学外国語FDプロジェクト編)かもがわ出版 1996年11月
4. 『中国20世紀文学を学ぶ人のために』(宇野木洋・松浦恆雄編)世界思想社 2003年6月
5. 『中日橋漢語／中国語——日中の架け橋(中級上)』(王順洪・杉本雅子・宇野木洋編)北京大学出版社 2017年6月
6. 『中日橋漢語／中国語——日中の架け橋(中級下)』(王順洪・宇野木洋・杉本雅子編)北京大学出版社 2017年6月

【共著】

1. 『外国語のすすめ』(奥村剋三編)大月書店 1986年6月
2. 『国際化と異文化理解』(笈文生・飛田就一編)法律文化社 1990年1月
3. 『講座・青年・第3巻・世界の青年はいま』清風堂書店 1991年1月
4. 『魯迅研究の現在』(魯迅論集編集委員会編)汲古書院 1992年9月
5. 『現代文学理論を学ぶ人のために』(川上勉編)世界思想社 1994年10月
6. 『越境するテキスト——東アジア文化・文学の新しい試み』(松浦恆雄・垂水千恵・廖炳恵・黄英哲編)研文出版 2008年8月
7. 『新中国の60年——毛沢東から胡錦濤までの連続と不連続』(日本現代中国学会編)創土社 2009年9月
8. 『わたしたちは二十世紀を望めるのか——明日のないその日のために』(GN21編)紀伊国屋書店(電子書籍)2013年5月

【翻訳著】(監訳著・共訳著も含む)

1. 『故郷』(中国の児童文学・第11巻)太平出版社 1984年5月(魯迅「故郷」「村芝居」/周作人「西山のできごと」/張天翼「包さん父子」)
2. 『現代中国法概論——現代中国法叢書1』(王叔文・韓延龍・畑中和夫編/愛新覚羅連湘・宇野木洋・土肥道子訳)法律文化社 1989年1月
3. 『現代中国民法論——現代中国法叢書4』(王叔文・乾昭三・甲斐道太郎編/宇野木洋・斎藤敏康監訳)法律文化社 1991年9月
4. 『現代中国刑事法論——現代中国法叢書3』(徐益初・井戸田侃編/宇野木洋監訳)法律文化社

1992年9月

5. 『新自由主義的グローバル化と東アジア——連携と反発の動態分析』（中谷義和・朱恩佑・張振江編／宇野木洋・中国語監訳）法律文化社 2016年11月

【学術論文】（中国文学・文化批評関係に限る）

1. 社会主義中国のリアリズムに関する予備的考察——〈結合〉創作方法を手がかりに
東京都立大学大学院人文科学研究科中国文学専攻修士論文 1980年3月
2. 中国のリアリズムに関する予備的考察——〈結合〉創作方法を手がかりに
『世界文学』第55号 世界文学会 1980年12月
3. 「文芸講話」批判問題・覚書——胡喬木による“批判”をめぐる
『中国研究』第135号 日中出版 1982年5月
4. 中国とロスト・ジェネレーション
『無名』第3号 都立大学大学院中文専攻院生有志 1983年1月
5. 〈生活深入〉論・覚書——「文芸講話」の現在
『中国研究』第150号 日中出版 1983年10月
6. 最近の中国文芸界の一状況——詩人・孫静軒の自己批判をめぐる
『世界文学』第60号 世界文学会 1983年10月
7. 〈天安門詩〉断想
『中国研究』第156号 日中出版 1984年4月
8. 〈結合〉創作方法の軌跡——その状況的整理
『野草』第34号 中国文芸研究会 1984年9月
9. 詩人としての父と子——顧工と顧城の場合のスケッチ
『中国文芸研究会会報』第50期記念号 中国文芸研究会 1985年2月
10. 徐敬垂「崛起的詩群」の周辺——〈現代詩〉の試みと“挫折”
『外国文学研究』第66号～67号 立命館大学外国語連絡協議会 1985年6・8月
11. 文芸理論の“現代化”覚書——劉再復「“文学の主体性”論」を基軸に
『季刊中国』第7号 『季刊中国』刊行委員会 1986年12月
12. 中国現代文学研究の方法をめぐる断想
『野草』第39号 中国文芸研究会 1987年2月
13. 関於日本の“主体性”論争
『文学研究参考』88年5期 中国社会科学院文学研究所 1988年5月
*中国当代文学研究会・天津分会 = 1987年12月18日（中国天津市・天津社会科学院）における報告原稿
14. “文学主体性”論争・状況整理——劉再復ノート
『野草』第42号 中国文芸研究会 1988年8月
15. 異文化受容形態としての〈転向〉と〈回心〉——同時代中国における“西方”文学理論受容の一側面
笈文生・飛田就一編『国際化と異文化理解』法律文化社 1990年1月
16. 民主化運動と世代——同時代中国の青年・学生の苦悩

- 『講座・青年・第3巻・世界の青年はいま』清風堂書店 1991年1月
17. 現在の視角から見た黄遵憲の日本認識——『日本雑事詩』の周辺
『立命館言語文化研究』2巻5・6合併号 立命館大学国際言語文化研究所 1991年3月
 18. 「六・二絶食宣言」と劉暁波——ある中国青年知識人の思想と行動
『グリオ [griot]』創刊号 現代世界と文化の会 平凡社 1991年4月
 19. 日本的中国近現代文学研究
『自立早報』（自立副刊）1991年7月21・22日付 台湾・自立早報社 1991年7月
 20. 「自己責任」と「自己否定」の論理——劉再復と劉暁波をめぐる覚書
『季刊中国』第27号 昭和出版 1991年12月
 21. “文学主体性”論争の軌跡——同時代中国における文学理論研究領域の一状況
『ことばとそのひろがり』（『立命館法学・別冊（伊藤堅二・宮地國敬教授退職記念論集）』）立命館大学法学会 1992年3月
 22. 〈モダン〉と〈ポスト・モダン〉の狭間——中国の文学理論研究における“掙扎”と劉再復
魯迅論集編集委員会編『魯迅研究の現在』汲古書院 1992年9月
 23. 文学理論状況をめぐる「知」の枠組みとその転換
川上勉編『現代文学理論を学ぶ人のために』世界思想社 1994年10月
 24. 同時代中国における「“文芸”の市場経済化」現象・点描
『立命館政策科学』3巻4号 立命館大学政策科学会 1996年3月
 25. 文革後二〇年の文学状況を振り返る——「凝縮」と「重層化」の視角から
『季刊中国』第47号 昭和出版 1996年12月
 26. 統治できない「文化の場」——中国のテレビ事情を読む
『立命館教育科学プロジェクト研究Ⅳ——メディアと表現文化に関する総合的研究』立命館大学教育科学研究所 1997年3月
 27. 越境する「ポスト文革」期の文学的営為——「凝縮」と「重層化」の視角から
『中国現代文学の多元的展開と地域的特質に関する研究』（1995～97年度・科学研究費補助金（基盤研究B）研究成果報告書／課題番号07451095／研究代表者・岡田英樹）1998年3月
 28. 「ポスト文革」期の文学観念に関する一考察——モダニズムに対する「誤読」とポストモダン
『日本中国当代文学研究会会報』第12号 日本当代文学研究会 1998年8月
* 中国新时期文学中日学者対話会（中国当代文学研究会〔中国〕・清華大学・首都師範大学・日本中国当代文学研究会共催）＝1997年8月21日（中国北京市・首都師範大学）における報告原稿
 29. 異文化接受的兩種形態：“轉向”与“回心”——当代中国对“西方”理論接受的一側面
『東洋文論——日本現代中国文学論』浙江人民出版社 1998年8月
* [15]の中国語訳（一部修改）
 30. 「百花時代」と秦兆陽をめぐる覚書——「建国後17年」文学状況に関する予備的考察
『立命館文学』第563号（笈文生・松本幸男教授退職記念中国文学論集）2000年2月
 31. 問題群としての「建国後17年」文学状況・私的覚書
『野草』第67号 中国文芸研究会 2001年2月
 32. 「全球化」現象と格闘する21世紀中国文学——如何なる「言葉」を発することができるのか

- 『EXORIENTE [えくすおりえんて]』第4号 大阪外国語大学言語社会学会（嵯峨野書院）
2001年9月
33. 20世紀末中国における「後学（ポスティズム）」——欧米の現代思想・文化理論受容の一側面
『ことば・文学・思想』（立命館大学法学部創立100周年論集）2001年12月
34. 「美女作家」現象とその周辺——キーワードとしての「才女」「ネットワーク」「私人化」
『アジア遊学』第43号 勉誠出版 2002年9月
35. 関於“後殖民理論”的幾個問題——日本学者怎樣看中国的“後学”併介紹日本的“後殖民理論”
研究
『ことばとそのひろがり（2）』（『立命館法学・別冊（川上勉教授退職記念論集）』）立命館大
学法学会 2004年3月
36. 中国における「新左派」の思索と営為——汪暉の「近代」省察と「新自由主義」批判
『ことばとそのひろがり（4）』（『立命館法学・別冊（山口幸二教授退職記念論集）』）立命館大
学法学会 2006年3月
37. 情況／理論としてのポストモダンとポストコロニアル——台湾との「対話」
松浦恆雄・垂水千恵・廖炳恵・黄英哲編『越境するテキスト——東アジア文化・文学の新しい
試み』研文出版 2008年8月
38. 「文芸思想闘争」の実態に関わる研究の現在——李向東・王増如『丁陳反党集団冤案始末』の
紹介を兼ねて
『野草』第84号 中国文芸研究会 2009年8月
39. 「啓蒙」をめぐる格闘——建国後60年の文学的営為をめぐる覚書
『季刊中国』第98号 季刊中国刊行委員会 2009年9月
40. 問題としての近代から見た「毛鄧」時代——ポスト文革期の文化批評領域をめぐる予備的考察
日本現代中国学会編『新中国の60年——毛沢東から胡錦濤までの連続と不連続』創土社 2009
年9月
41. 関於“現代性”的幾個問題——作為一名日本学者共同思考
『立命館文学』第615号（岡田教授退職記念論集）2010年3月
42. ノーベル平和賞受賞者・劉曉波の思想に関する一考察——「原点」としての「全面欧米化」論
『季刊中国』第103号 季刊中国刊行委員会 2010年12月
43. 「古希」を迎えた毛沢東「文芸講話」——その軌跡と現在の評価をめぐって
『季刊中国』第111号 季刊中国刊行委員会 2012年12月
44. 明日の日本に生きる魯迅の言葉——絶望から／希望へ
片岡幸彦・安藤次男編『わたしたちは二十二世紀を望めるのか——明日のないその日のため
に』紀伊国屋書店（電子書籍）2013年5月
45. 対象・方法の拡散的多様化に直面する中国現代文学研究領域——戦後日本の研究営為を踏ま
えつつ現在の課題を探る
『現代中国』第90号 日本現代中国学会 2016年9月
*特集「日本の中国研究を問う」（2015年度全国学術大会「共通論題」報告）
46. 丸山昇「当代文学・知識人」論をめぐる私的覚書——建国70周年を振り返る一つの手がかり
として

『研究中国』第9号 日本中国友好協会『研究中国』刊行委員会 2019年10月
*特集「1949年中華人民共和国成立の歴史的意味」

【評論・書評・事典項目執筆その他】(中国文学・語学・文化批評関係に限る)

1. 中国社会主義文学についての覚え書
『都立大学新聞』(再建)第13号(1978年3月10日付)東京都立大学新聞会
2. “你好”と“再見”
『日中友好新聞』第1274号(1982年10月24日付)日本中国友好協会
*筆名・(う)
3. 中国語の中の外来語
『日中友好新聞』第1278号(1982年11月21日付)日本中国友好協会
*筆名・(う)
4. ショート・ショートの流行
『日中友好新聞』第1291号(1983年3月6日付)日本中国友好協会
*筆名・星野民人
5. 中国語の謎々
『日中友好新聞』第1298号(1983年4月24日付)日本中国友好協会
*筆名・藤木想
6. テレビのコマーシャルから
『日中友好新聞』第1308号(1983年7月17日付)日本中国友好協会
*筆名・藤木想
7. 西欧理論への強い関心——「アルチュセールと構造主義」(『紅旗』83.9)について
『日中友好新聞』第1309号(1983年7月24日付)日本中国友好協会
*筆名・水木哲男
8. 暗い時代と庶民のしたたかさ——『茶館』観劇記
『日中友好新聞』第1318号(1983年10月9日付)日本中国友好協会
*筆名・水木哲男
9. 反右派闘争の再来はないか——「精神汚染」批判キャンペーンをめぐる
『日中友好新聞』第1330号(1984年1月22日付)日本中国友好協会
*筆名・水木哲男
10. “両”という言葉から始まって…
『日中友好新聞』第1339号(1984年3月25日付)日本中国友好協会
*筆名・藤木想
11. 受講生との対話から
『百花園』第1号 1984年9月 日本中国友好協会中国語委員会
12. 作品論よ、おこれ!——特集にあたって一言
『野草』第36号 中国文芸研究会 1985年10月
13. 野草漫語
『野草』第36号 中国文芸研究会 1985年10月

14. 中国現代文学研究者の〈世代〉の問題
『フォーラム』第2号 立命館大学外国語連絡協議会 1985年10月
15. 文化大革命後の中国文学
『土曜講座だより』第115号 立命館大学人文科学研究所 1986年3月
16. 中国の高等教育における当代文学“試験問題”
『中国文芸研究会会報』第61号 中国文芸研究会 1986年9月
17. [在外研究通信] 天津発・“小道消息” No.1～3
『中国文芸研究会会報』第74号～76号 中国文芸研究会 1988年1月～3月
18. “作品論”の“困難”
『野草』第43号 中国文芸研究会 1989年3月
19. [シンポジウム] 小説における視点・語り・時間
『外国文学研究』第87号 立命館大学外国語連絡協議会 1989年3月
20. 腹の底から怒りがわき起こる
『ゆるせない武力弾圧——中国民主化運動のゆくえ』昭和出版 1989年8月
21. 中国のしゃれ言葉——“歇后語”
『日中友好新聞』第1547号（1990年4月15日付）日本中国友好協会
22. “日中研究者の集い”に参加して考えたこと
『中国文芸研究会会報』第105号 中国文芸研究会 1990年7月
23. 文学領域における〈プレモダン〉〈モダン〉〈ポストモダン〉現象——最近の中国同時代文学の動向を考える一視角として
『日中友好新聞』第1556号～1557号（1990年8月5・15日付）日本中国友好協会
24. 野草漫語
『野草』第46号 中国文芸研究会 1990年8月
25. [書評]『文学芸術の新潮流』（岩波講座・現代中国 第5巻）
『中国現代史研究会通信』第2期第48号 中国現代史研究会 1990年9月
26. [日本学者答問録] “轉向”与“回心”——新方法研究談片
『荒島』第2号 中国・荒島文学雑誌社 1991年3月
27. 中国における〈プレモダン〉〈モダン〉〈ポストモダン〉現象
『土曜講座だより』第177号 立命館大学人文科学研究所 1991年6月
28. [在外研究通信] 天津発“小道消息”Ver.2 No.1～5
『中国文芸研究会会報』第145号～147号・150号・152号 中国文芸研究会 1993年11月～1994年6月
29. [書評] わたしのすすめる本／ジェームズ・ラル 『テレビが中国を変えた』
『日中友好新聞』第1681号（1994年5月15日付）日本中国友好協会
30. 「木神原鬱恵」って誰？
『日中友好新聞（京都府連版）』第8号（1994年6月15日付）日本中国友好協会京都府連合会
31. [シンポジウム] 中国現代詩の行方
『野草』第55号 中国文芸研究会 1995年2月
32. [シンポジウム] 台湾の現代化をめぐる

- 『立命館言語文化研究』第7巻3号 立命館大学国際言語文化研究所 1996年1月
33. [シンポジウム] 戦後50年——中国現代文学研究を振り返る
『野草』第57号 中国文芸研究会 1996年2月
 34. 男もすなるフェミニズム？
『野草』第57号 中国文芸研究会 1996年2月
 35. 野草漫語
『野草』第57号 中国文芸研究会 1996年2月
 36. 同時代の中国文学状況・私観——プレモダン・モダン・ポストモダンの重層構造
『中国現代史研究会通信』第3期8号 中国現代史研究会 1996年3月
 37. [項目執筆]「徐敬亜」「孫静軒」「熊召政」
『集英社・世界文学事典』集英社 1996年10月～98年2月
 38. [書評] 盡信書則不如無書・その1／郭鎮之『中国電視史』
『中国文芸研究会会報』第181号 中国文芸研究会 1996年11月
 39. [書評] ジェンイン・チャ『CHINA POP 新北京物語』
『週刊読書人』第2164号 1996年12月13日付
 40. [項目執筆]「中国近現代文学」「魯迅」「茅盾」「郭沫若」「林語堂」「丁玲」「巴金」「庄曹禺」
「胡風」「劉心武」「北島」「劉再復」「文芸講話」「楊逵」
『エンカルタ97・エンサイクロペディア (CD版)』マイクロソフト社 1997年2月
 41. [論文評] 大西紀「劉心武の中編小説『戳破 (突き破る)』について」に対して自分勝手にコメントする
『野草』第60号 中国文芸研究会 1997年8月
 42. 企業の外国語と大学の外国語
『外国語フォーラム '97「世界が変わる・学びが変わる」報告集』立命館大学教育科学研究所・外国語教育FDプロジェクト 1997年12月
 43. [書評] 大学を「開く」試みの呼びかけ／小林康夫『大学は緑の眼をもつ』
『大学創造』第7号 高等教育研究会 1998年1月
 44. [論文評] 勝股高志「馬立三と伝統相声」を門外漢が読む
『野草』第61号 中国文芸研究会 1998年2月
 45. 中国現代文学研究者の「世代」論
『TONGXUE (同学)』第15号 (98年春号) 同学社 1998年2月
* 『TONGXUE (同学)』綜輯号 (同学社編集部 2001年5月) に再録
 46. 新しい外国語を学ぶ「場」としての大学
『世界のことばをモノにするためのカタログ』アルク 1998年3月
 47. [書評] わたしのすすめる本／丸山昇『上海物語——激動と混沌の街』
『日中友好新聞』第1803号 (1998年3月25日付) 日本中国友好協会
 48. [書評] 魏京生『勇氣——獄中からの手紙』
『週刊読書人』第2230号 (1998年4月10日付)
 49. 200期記念号「会報漫語」
『中国文芸研究会会報』200期記念号 中国文芸研究会 1998年7月

50. 言葉を奪う／奪われる
『立命館大学・国際平和ミュージアムだより』第6巻1号（通巻14号）1998年8月
51. [項目執筆]「中国近現代文学（増補）」「魯迅」「茅盾」「郭沫若」「林語堂」「丁玲」「巴金」「家（新規）」「曹禺」「胡風」「劉心武」「北島」「劉再復」「文芸講話」「楊逵」「老舍（新規）」「茶館（新規）」「駱駝祥子（新規）」「格非（新規）」
『エンカルタ百科事典99（CD版）』マイクロソフト社 1998年11月
52. 法学部としての「世界の言語と文化」の取り組みに関する個人的断想的覚書
『言語教育・研究センター／言語コミュニケーションセンター：センターニュース』第2号
立命館大学 1998年12月
53. 野草漫語
『野草』第63号 中国文芸研究会 1999年2月
54. 東アジアの平和秩序の焦点＝台湾を知ろう——言語と文化の角度から
『平和をつむぐ』平和友の会 1999年3月
55. 事情説明を一言——松浦恒雄さんの文章に関わって
『中国文芸研究会会報』第234号 中国文芸研究会 2001年4月
56. 言葉から台湾を考えてみる——最近の二つの体験から
『世界文学ニュース』第81号 世界文学会 2001年6月
57. 20世紀中国末における「後学（post-ism）」
『日本現代中国学会＝関西・西日本支部ニューズレター』第4号 日本現代中国学会 2001年8月
58. [論文評] 星名報告「現代中国文学研究における台湾文学研究」に対するコメント
『言語文化研究』第13巻第3号 立命館大学国際言語文化研究所 2001年12月
59. 残雪が語ったこと [共著訳]
『中国文芸研究会会報』第246号 中国文芸研究会 2002年4月
60. 2002年3月「例会報告（私的覚書）」
『中国文芸研究会会報』第246号 中国文芸研究会 2002年4月
61. 「文学商品化」現象の現在と知識人の営為——「美女作家」「“後学”論争」「新左派」をキーワードに 『日本現代中国学会＝関西・西日本支部ニューズレター』第7号 現代中国学会 2002年8月
62. [在外研究通信] 北京発“小道消息”——「大学改革」と「六四・知識人」の現在ほか
『中国文芸研究会会報』第250期記念号 中国文芸研究会 2002年9月
63. 残雪叙述——残雪訪談録 [共著／秦嵐訳]
『藍（BLUE）』総第7・8期合併号 2002年9月
* [59] の中国語訳
64. [書評] 賈英華『最後の宦官秘聞——ラストエンペラー溥儀に仕えて』
『週刊読書人』第2459号（2002年10月25日付）
65. 残雪叙述——残雪訪談録 [共著／秦嵐訳]
『海南広播電視大学学報』2002年第3期 2002年11月
* [59] の中国語訳

66. 中国の「大学改革」事情——清華大学における見聞から
『立命館大学法学部ニューズレター』第31号 2002年12月
67. 中国・清華大学における「大学改革」事情
『京滋・私大教連』第74号 京都滋賀地区私立大学教職員組合連合 2003年1月
68. [論文評] 是永駿「詩の言葉——現代詩における詩律の生成」をめぐる個人メモ
『野草』第71号 中国文芸研究会 2003年2月
69. 「中国現代文学者の集い」(通称「前夜祭」)をめぐる断想
『日本中国學會便り』2003年度第1号 日本中国学会 2003年4月
70. 採訪——宇野木洋 [秦嵐訳]
残雪『為了報仇写小説——残雪訪談録』湖南文芸出版社 2003年8月
* [59]の中国語訳(残雪による宇野木洋に対する印象記を付加)
71. 「文学商品化」現象の現在と知識人の営為——「美女作家」「後学」論争」「新左派」をキーワードに
『日本中国当代文学研究会会報』第17号 日本当代文学研究会 2003年9月
72. 台湾の研究者との刺激的な交流——「11月例会」報告を兼ねて
『中国文芸研究会会報』第266号 中国文芸研究会 2003年12月
73. 「現代性」の問題を「回避」しない眼差しのために——『中国二〇世紀文学を学ぶ人のために』書評への取りあえずの回答
『中国文芸研究会会報』第275号 中国文芸研究会 2004年9月
74. 中国の高等教育をめぐる動向——領域の拡大と世界を視野に入れた改革
『UNITAS』第369号 学校法人立命館・広報課 2004年10月
75. 最高の「何でも屋」——阪口直樹さんから教わったこと(私的覚書)
『野草』第78号 中国文芸研究会 2005年2月
* 「阪口直樹先生を偲んで」(追悼文集)の1編として
76. [書評] 一海知義・笈久美子・笈文生『漢語四方山話』
『日中友好新聞(京都府連版)』第120号(2005年2月25日付)日本中国友好協会京都府連合会 2005年2月
77. [論文評] 星名宏修「『凶蛮』と高砂義勇隊の『あいだ』——河野慶彦『扁柏の蔭』を読む」
『野草』第76号 中国文芸研究会 2005年8月
78. [シンポジウム] 阪口直樹先生の研究が切り拓いた地平
『野草』第76号 中国文芸研究会 2005年8月
79. [書評] 木山英雄『人は歌い人は哭く大旗の前——漢詩の毛沢東時代』
『中国文芸研究会会報』第291号 中国文芸研究会 2006年1月
80. [論文評] 園山延枝「中国に於ける村上春樹『受容』——翻訳者・林少華の評価を中心にした考察」
『野草』第77号 中国文芸研究会 2006年2月
81. [書評] 片岡幸彦編『下からのグローバリゼーション——「もうひとつの地球村」は可能だ』
『図書新聞』第2773号(2006年5月6日付)
82. モダニズムの「孤独」——釜屋修先生に対する「誤読」?

- 『釜やんシンフォニー——釜屋修先生退休記念文集』翠書房 2006年7月
83. [論文評] 栃尾季美「建国前後出版界の再編を巡って——二大私営出版社の周辺から」
『野草』第78号 中国文芸研究会 2006年8月
84. 魯迅テキストの読まれ方——「激辛」評論家・佐高信の場合
『中国文芸研究会会報』第300期記念号 中国文芸研究会 2006年10月
85. 『克服・拮抗・模索——文革後中国の文学理論領域』刊行の前も後も…
『立命館ロー・ニューズレター』第47号 立命館大学法学部 2006年12月
86. 「文学官僚」という「お仕事」——作家協会党組副書記・郭小川の場合
『中国文芸研究会会報』第304号 中国文芸研究会 2007年2月
87. 「丸山昇先生を偲ぶ会」参加報告
『中国文芸研究会会報』第305号 中国文芸研究会 2007年3月
88. [書評] 汪暉『思想空間としての現代中国』
『中国研究月報』2007年3月号(第61巻第3号) 中国研究所 2007年3月
89. [インタビュー] 事実を見つめ氷を溶かそう——温家宝首相来日と日中関係の今後
『京都新聞』2007年4月20日付「私論公論」欄
90. 「人間」への信頼を貫く
『季刊中国』第89号 季刊中国刊行委員会 2007年6月
* 「丸山昇先生を偲ぶ」(追悼文集)の1編として
91. <毛沢東時代>を再審する——中華人民共和国建国60年の再認識(その1)
『日本現代中国学会・第57回・全国学術大会案内』2007年9月
92. 「問題群としての東アジア」から——第1回東アジア専門家会議の報告と討論に寄せて『立命館大学国際地域研究所ニューズレター』第36号 立命館大学国際地域研究所 2007年12月27日
93. 対“人”的信頼一以貫之 [許丹誠訳]
『汕頭大学学報(人文社会科学版)』2008年第1期(第24巻第1期) 汕頭大学 2008年2月
* 「日本学者丸山昇先生記念特輯」として [70]の中国語訳
94. [書評] 大西広『チベット問題とは何か——“現場”からの中国少数民族問題』
『京都民報』2008年9月7日付
95. 誰もが会員になれる日中友好協会へ——新会長あいさつ
『日中友好新聞(京都府連版)』第159号(2008年9月25日付) 日本中国友好協会京都府連合会
96. [在外研究通信] 北京発「小道消息」その1～4
『中国文芸研究会会報』第326号～329号 中国文芸研究会 2008年12月～09年3月
97. 「還暦」を迎える中国——「現場」から一言
『日中友好新聞(京都府連版)』第163号(2009年1月15日付) 日本中国友好協会京都府連合会
98. 中国における民間の形成——新年に思うこと
『日中友好新聞(京都府連版)』第173号(2010年1月15日付) 日本中国友好協会京都府連合会

99. 「第2部 中国グローバル化の歴史的位罫と課題」に対するコメント・討論
『平成21年度外務省「日中研究交流支援事業」21世紀アジアにおける新たな日中関係——現状と課題 報告書』2010年2月 立命館大学（国際地域研究所）
100. [書評] 小原輝三『向銭看時代 中国1988年～1997年 豊かになれる人から豊かに』
『日中友好新聞』第2191号（2010年4月25日付）日本中国友好協会
101. [書評] 意欲的な試みを受け止めながら、なお考えたこと幾つか——藤井省三訳『故郷／阿Q正伝』をめぐる覚書
『野草』第86号 中国文芸研究会 2010年8月
102. [インタビュー] ノーベル平和賞に劉曉波氏
『京都新聞』2010年10月9日付
103. 劉曉波のノーベル平和賞受賞に思う——米国型民主を唯一絶対のモデルと見なすことへの危惧
『日中友好新聞』第2207号（2010年11月5日付）日本中国友好協会
104. 「第二部」のコメントーターを担当して考えたこと
『季刊中国』第103号 季刊中国刊行委員会 2010年12月
* 日本中国友好協会創立60周年記念シンポジウム「日中関係の未来を展望する」
105. 2011年を迎えて——「辛卯」断想
『日中友好新聞（京都府連版）』第184号（2011年1月15日付）日本中国友好協会京都府連合会
106. [参考資料紹介] 劉曉波「幸いなことに自由で裕福で強大なアメリカが存在する」——ノーベル平和賞受賞者・劉曉波によるアメリカ海外派兵全面支援論文
『季刊中国』第104号 季刊中国刊行委員会 2011年3月
107. 野草漫語
『野草』第88号 中国文芸研究会 2011年8月
108. 「龍」年の中国——新年に思うこと
『日中友好新聞（京都府連版）』第193号（2012年1月15日付）日本中国友好協会京都府連合会
109. 「三・一一」1周年に思う
『日中友好新聞』第2253号（2012年4月5日付）日本中国友好協会
110. そこはかとなない「文化」の交流——「馬上去・馬上来」のこと
『日中友好新聞（京都府連版）』第203号（2013年1月15日付）日本中国友好協会京都府連合会
111. 太田進先生と魯迅——「也便成了路」をめぐる思い出
『野草』第92号 中国文芸研究会 2013年8月
* 「太田進先生をしのんで」（追悼特集）の1編として
112. [項目執筆] 現代文学をめぐる「運動」と「制度」
『中国百科——中国百科検定公式テキスト』日本中国友好協会編 めこん 2013年8月
113. 「倍返し」と「加倍奉還」——安倍首相にも草の根から「倍返し」を！
『日中友好新聞（京都府連版）』第213号（2014年1月15日付）日本中国友好協会京都府連合会

114. [書評]『上海物語』(丸山昇著)
『東方』400号記念号(2014年6月)東方書店
* 400号記念「今だからこそ、読んで欲しい、心に残る一冊」特集
115. [書評]張偉『只言片語——中国作協前秘書長的回憶』
『中国文芸研究会会報』第395号 中国文芸研究会 2014年9月
* 「自伝・回想録を読む会」の解題連載として
116. 日本で就職する中国人留学生の急増——友好運動に新たな課題と可能性
『日中友好新聞(京都府連版)』第224号(2015年1月15日付)日本中国友好協会京都府連合会
117. 「複眼」に立って中国を紹介——追悼・陳舜臣
『日中友好新聞』第2346号(2015年3月5日付)日本中国友好協会
118. 高橋和巳をめぐる切れ切れの覚書——中国文学・立命館大学ほか
『中国文芸研究会会報』第400期記念号 中国文芸研究会 2015年3月
119. とともに歩む仲間を増やして——新たな立命館の路を創り出す初年度に！
『ゆにおん』特別号 立命館大学教職員組合 2015年3月25日
120. 日中友好協会として「逆手」に取ることができる点は…？——「安倍談話」を読んで考えたこと
『日中友好新聞(京都府連版)』第232号(2015年9月15日付)日本中国友好協会京都府連合会
121. アジアにおける「終戦」の日——「戦後71年」にあたって
『日中友好新聞(京都府連版)』第236号(2016年1月15日付)日本中国友好協会京都府連合会
122. 平和友好団体の「春節のつどい」——「春雨綿綿妻独宿」って何？
『日中友好新聞(京都府連版)』第238号(2016年3月15日付)日本中国友好協会京都府連合会
123. 「姓のトップ5」の人口は合計4億人！——中国語の「百姓」の意味
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その1(2016年4月25日)立命館孔子学院 HP
124. 「烟酒」と「研究」——久々に経験した「白酒」乾杯攻撃！？
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その2(2016年5月24日)立命館孔子学院 HP
125. 「珈琲」と「咖啡」——「コーヒー文化」が定着するまで？
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その3(2016年6月26日)立命館孔子学院 HP
126. 北京という「現場」で見聞・思考したこと(1)——建党95周年・周恩来・習仲勳ほか
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その4(2016年7月26日)立命館孔子学院 HP
127. 北京という「現場」で見聞・思考したこと(2)——小瀋陽・中国大学事情ほか
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その5(2016年8月

- 27日) 立命館孔子学院 HP
128. 「春雨綿綿妻独宿」が示す漢字とは……? ——文字に淫する中国の文化
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと! ?」』その6 (2016年9月24日) 立命館孔子学院 HP
129. [書評] 中国1930年代文学研究会編『中国現代散文傑作選 1920～1940——戦争・革命の時代と民衆の姿』
『日中友好新聞』第2398号 (2016年10月25日付) 日本中国友好協会
130. 「倍返し」と沖縄——「倍」という漢字の原義にも関わって
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと! ?」』その7 (2016年10月26日) 立命館孔子学院 HP
131. 「日本笑星“馬上去・馬上来”小姐来津」——ささやかな思い出から
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと! ?」』その8 (2016年11月30日) 立命館孔子学院 HP
132. トランプは「特朗普」か「川普」か? ——新華社と「網民」の争い
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと! ?」』その9 (2016年12月22日) 立命館孔子学院 HP
133. トランプ次期大統領の中国語表記——「特朗普」それとも「川普」?
『日中友好新聞 (京都府連版)』第247号 (2017年1月15日付) 日本中国友好協会京都府連合会
134. 世界孔子学院大会 (昆明) への参加報告——「国家プロジェクト」を実感?!
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと! ?」』その10 (2017年1月24日) 立命館孔子学院 HP
135. 「微信紅包」を知っていますか? ——「春節」における新たな流行の誕生
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと! ?」』その11 (2017年2月24日) 立命館孔子学院 HP
136. 酒呑みのランキング——中国そして韓国、では日本は?
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと! ?」』その12 (2017年3月24日) 立命館孔子学院 HP
137. [書評] 『丁玲自伝——中国革命を生きた女性作家の回想』
『中国文芸研究会会報』第424・425号 中国文芸研究会 2017年3月
* 「自伝・回想録を読む会」の解題連載として
138. 「外匯兌換券〔FEC〕」の話——1990年代前半までの「幻の通貨」
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと! ?」』その13 (2017年4月28日) 立命館孔子学院 HP
139. 世界孔子学院大会 (昆明) へ参加して——国家プロジェクトを実感?!
『日本現代中国学会ニューズレター』第51号 日本現代中国学会 2017年5月
140. 続・「外匯兌換券〔FEC〕」の話——「白卡」からオークションまで
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと! ?」』その14 (2017年6月7日) 立命館孔子学院 HP

141. 中国におけるノーベル文学賞をめぐる——莫言の次は…?!
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!?!」』その15 (2017年7月2日) 立命館孔子学院 HP
142. 「配偶者」という言葉をめぐって——どう呼んでいますか…?
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!?!」』その16 (2017年7月31日) 立命館孔子学院 HP
143. 関西空港 20 時間 (!) 滞在経験——LCC って何?
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!?!」』その17 (2017年9月3日) 立命館孔子学院 HP
144. 編集後記
『現代中国』第91号 日本現代中国学会 2017年9月
145. 「四密碼森」って何? ——中国語版「片仮名発音表記」(?) をめぐって
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!?!」』その18 (2017年9月30日) 立命館孔子学院 HP
146. 「中国現代文学研究者懇話会」の開催に向けて
『中国文芸研究会会報』第432号 中国文芸研究会 2017年10月
147. 「イトコ同士が結婚するなんて……?!」——中国における「イトコ婚」禁止
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!?!」』その19 (2017年11月7日) 立命館孔子学院 HP
148. 「你好!…請抽烟!」からの急激な変化——中国の喫煙事情をめぐる
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!?!」』その20 (2017年11月30日) 立命館孔子学院 HP
149. 世界孔子学院大会に出席して「ことば」を考える?! ——「XIANYANG」と英語
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!?!」』その21 (2017年12月21日) 立命館孔子学院 HP
150. 「戊戌変法」120周年——日本と中国の近代黎明期を思い起こそう
『日中友好新聞 (京都府連版)』第259号 (2018年1月15日付) 日本中国友好協会京都府連合会
151. 「干支」は「えと」だけを意味するのか? ——「戊戌変法」120周年
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!?!」』その22 (2018年1月30日) 立命館孔子学院 HP
152. 「羽生が勝って、羽生が負けた!」——日本人名の中国語読みをめぐる
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!?!」』その23 (2018年2月28日) 立命館孔子学院 HP
153. 井上ひさし『シャンハイムーン』を観劇して——魯迅と日本人を考える
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!?!」』その24 (2018年3月30日) 立命館孔子学院 HP
154. 中国現代文学生誕 100 周年! ——魯迅の短篇小説「狂人日記」をめぐる
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!?!」』その25 (2018年5

- 月 6 日) 立命館孔子学院 HP
155. 恋する魯迅——17 歳年下の女子学生との往復書簡
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その 26 (2018 年 6 月 9 日) 立命館孔子学院 HP
156. 「95 後」なら知っている言葉——日本語由来の若者流行語？！
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その 27 (2018 年 6 月 30 日) 立命館孔子学院 HP
157. [書評] 余傑著・劉燕子編 (劉燕子・横澤泰夫訳) 『劉曉波伝』
『図書新聞』第 3361 号 (2018 年 7 月 28 日付)
158. 急激に普及する中国シェア自転車サービス——「摩拜單車」神話 (1)
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その 28 (2018 年 7 月 30 日) 立命館孔子学院 HP
159. 「先嘗試、後管制！」精神が起業を励ます？！——「摩拜單車」神話 (2)
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その 29 (2018 年 9 月 2 日) 立命館孔子学院 HP
160. 編集後記
『現代中国』第 92 号 日本現代中国学会 2018 年 9 月
161. 今夏も台風には崇られた？！——「台風男・女」の中国語は？
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その 30 (2018 年 10 月 6 日) 立命館孔子学院 HP
162. 「日中不再戦」の碑をご存知ですか？——嵐山の新たな観光スポットに
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その 31 (2018 年 10 月 31 日) 立命館孔子学院 HP
163. 中国「網絡〔ネット〕文学」の現状から——小説がまだ「力」を持っている？！
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その 32 (2018 年 12 月 2 日) 立命館孔子学院 HP
164. 1980 年代中国の本屋事情——目当ての本を買い込むのは大仕事だった…？！
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その 33 (2018 年 12 月 25 日) 立命館孔子学院 HP
165. 「よしなに！」が通じない？——中国語で言えば「隨便」か「酌情」か
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その 34 (2019 年 1 月 29 日) 立命館孔子学院 HP
166. 「1314520」って何でしょう？——数字語呂合わせの日中比較
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その 35 (2019 年 2 月 28 日) 立命館孔子学院 HP
167. 数字語呂合わせの補足——小野秀樹『中国人のこころ』を紹介する
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと！？」』その 36 (2019 年 3 月 16 日) 立命館孔子学院 HP
168. 珍しい姓について？！——中国の「複姓」の話など

- 『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!？」』その37(2019年4月24日)立命館孔子学院HP
169. コメントしておきたいこと二点ほど——「天安門事件」30周年にあたって
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!？」』その38(2019年7月16日)立命館孔子学院HP
170. 日本における中国「大衆文学」の流行——史上初めての画期的現象
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!？」』その39(2019年8月31日)立命館孔子学院HP
171. [建国70周年に思う] 文学の統一戦線と文学者の統一戦線——丸山昇先生との出会い
『日中友好新聞』第2491号(2019年9月25日付)日本中国友好協会
172. 「書評特集」にあたって
『現代中国』第93号 日本現代中国学会 2019年9月
173. 「行千里, 致広大。」——人口世界第1位都市・重慶を堪能して来た!
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!？」』その40(2019年10月3日)立命館孔子学院HP
174. 「生活拉埃分類〔生活ゴミ分別〕」状況について——上海の試みから…
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!？」』その41(2019年10月29日)立命館孔子学院HP
175. 佐高信『いま、なぜ魯迅か』を紹介する(1)——「生きる指針」としての魯迅の言葉
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!？」』その42(2019年11月30日)立命館孔子学院HP
176. 佐高信『いま、なぜ魯迅か』を紹介する(2)——「まじめナルシズム」を捨て去っていくために
『立命館孔子学院学院長コラム「考えてみチャイナ・中国のこと!？」』その43(2019年12月26日)立命館孔子学院HP

【翻訳】

1. 小路(李功達「小路」／『人民文学』1980年9期)
『日中友好新聞』第1193号～1200号(1981年2月～4月)日本中国友好協会
*筆名・水木哲男
2. 色褪せた手紙(講容「褪色的信」／『人民文学』1981年6期)
『日中友好新聞』第1231号～1248号(1981年11月～1982年4月)日本中国友好協会
*筆名・水木哲男
3. 疎外の問題を語る(王若水「談異化問題」／『新聞戦線』1980年8期)
『中国研究』第139号 日中出版 1982年9月
4. 遠くへ行くんだ(張抗抗「去遠方」／『小説季刊』1980年4期)
『日中友好新聞』第1291号～1304号(1983年3月～6月)日本中国友好協会
*筆名・水木哲男
5. 中国企業破産法／中国外資企業法 [共訳]

- 『立命館法学』第191号 立命館大学法学会 1987年7月
6. 社会主義法制と法院の役割 (王叔文)
天野和夫・王叔文他編『裁判による法創造』晃洋書房 1989年3月
 7. 刑事裁判に基づく刑法の制定と完備 (何恩涛)
天野和夫・王叔文他編『裁判による法創造』晃洋書房 1989年3月
 8. 中国における文学研究現況・私論——研究者の世代の問題に関わって (孫歌)
『野草』第43号 中国文芸研究会 1989年3月
 9. 精神退化の陰影の下で——20世紀中国小説家における創作心理の障害について (王曉明) [監訳]
『野草』第47号 中国文芸研究会 1991年2月
 10. 四季の歌 (鉄凝「四季之歌」／『遭遇礼拝八』1990年)
『グリオ [griot]』第4号 現代世界と文化の会 平凡社 1992年10月
 11. 自我の探求と社会の凝視——現代中国の女性文学 (唐月梅)
『グリオ [griot]』第9号 現代世界と文化の会 平凡社 1995年4月
 12. 中国におけるテレビの誕生とその背景 (郭鎮之『中国電視史』より部分訳、1991年)
『火鍋子』第31号 翠書房 1997年5月
 13. 歴史研究者の視角から見た中国の歴史教育 (蔡錦末)
『立命館平和研究』第1号 立命館大学国際平和ミュージアム 2000年3月
 14. 50年代の国家の言説／文芸創作における「家国の想像」—陳紀滢の反共小説を例として— (梅家玲) [共訳]
『野草』第67号 中国文芸研究会 2001年2月
 15. 「新生代」の物語 (李敬沢「新生代的故事」)
『火鍋子』第64号 翠書房 2005年4月
 16. 「詩語」と公共言説 (唐曉渡「“詩語”和公共話語」)
『現代詩手帖』2008年1月号 思潮社
 17. 中国作家協会秘書長の1957年——詩人・郭小川のもう一つの顔 (李潔非「作協秘書長的1957」
／『典型文壇』2008年)
『ことばとそのひろがり (5)』(『立命館法学・別冊 (竹治進教授退職記念論集)』) 立命館大学
法学会 2013年3月
 18. 小説の発見 (第1章第4節まで) (閻連科『発現小説』2011年)
『ことばとそのひろがり (6)』(『立命館法学・別冊 (島津幸子教授追悼論集)』) 立命館大学
法学会 2018年3月

【中国文学・語学・文化批評関係以外の大学教育に関わる学術論文・評論その他】

1. 宇野木先生を訪れて——新任インタビュー
『ほうゆう』第36号 立命館大学法学会 1984年10月
2. 「豊かな国際人」像を考える——主として中国との関係で
『立命評論』第81号 1985年11月
3. カルチャーショックそして平和
『群鳩』第37号 立命館大学教職員組合 1987年11月

4. 教育の自己評価をめぐる架空対話——アンケート「宇野木センセイにも成績表を出そう!？」
の実施から考えたこと幾つか
『立命館大学教育科学研究所報』第10号 立命館大学教育科学研究所 1993年1月
5. 彼女の模索を見つめて——配偶者・友人・ライバルとして
『子どものしあわせ』1994年3月号 草土文化社
6. [論文] 現代青年のメディア接触と学び
『立命館教育科学プロジェクト研究V——現代青年・学生の意識構造と生活に関する総合的
研究』立命館大学教育科学研究所 1996年3月
7. [論文] カリキュラムに見る学生の「学び」——その初歩的分析
『立命館教育科学プロジェクト研究Ⅷ——学生の「学び」の実態に関する総合的研究』立命館
大学教育科学研究所 1997年9月
8. 国際平和ミュージアムについて思うことあれこれ
『立命館大学・国際平和ミュージアムだより』第8巻3号(通巻22号)2001年3月
9. [講演記録] 体験的失恋論
『立命館大学学生サポートルーム年報』第1号 2003年10月
10. [座談会] どうする!?! 世界一高い日本の学費——海外から見た日本の大学
『ねっとわーく京都』208号(特集:いま大学の在り方を問う)2006年5月
11. [講演記録] 子どもにとっての学生時代/親にとっての(子どもの)学生時代——「親離れ」
のさせ方と「子離れ」の仕方
『立命館大学・父母教育後援会だより』2006年冬号 2006年12月
12. [項目執筆] 暴力
『未来を拓く——ようこそ立命館へ』立命館大学 2010年4月
13. 尚学館845号室の灯り——石井美桑雄先生の思い出
『立命館文学』第620号(石井教授追悼記念論集)2011年2月